

市町村(組合)教育委員会教育長・教育委員会議 あいさつ

山梨県市町村(組合)教育委員会教育長・教育委員会議の開会にあたり、ごあいさつ申し上げます。本日はたいへんお忙しい中をご出席いただきまして、ありがとうございます。また、日頃より教育行政にご尽力いただいていることに對しまして、深く敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。

昨年度末から現在に至るまで、全ての教育委員会と学校はこれまでに前例のない事態への対応を迫られてまいりました。学校の臨時休業と再開、感染の防止と授業時間の確保など、難しい調整が求められる場面が続きました。そのような中で私は学校教育のあり方について考え直す機会が多くなったように感じています。

教員の仕事は子どもたちの学習や生活の指導が中心ですが、先生方は平素からも教え方や子どもとの接し方などについて熱心に研究しています。学校も家も関係なく平日休日も関係なく研究しています。教え方や接し方の土台となる人間に対する温かい考え方、そういうものを持ちたいと様々に勉強しています。

自分の時間、家族と過ごす時間も犠牲にして、というわけではありませんが、教員は自分の生きる姿勢全体で教育を行い、日常生活の中で教員としてある時間とそうでない時間は明確に区分できないと思います。私は高校時代、授業でお世話になっている先生が休日ラフな服装でいる姿に遭遇し驚きました。先生の休日とか私生活というものを想像したことがなく、先生はいつも先生、休みの日も背広を着ているものと無意識のうちに思っていたのかもしれない。

教員はその職務上、勤務時間に区切りをつけにくく、ずるずると仕事をやり続けてしまう傾向があります。また時間をかければかけるほどよい教育ができるという思い、これは時に「思い込み」でもありますが、そういう思いもあります。

自らがいつでも学び、どこでも学び、そしてついつい教えすぎてしまう教員、そういう教員の仕事はきちんと時間管理するのが難しいと思います。しかしどんなに困難でも、いま教員が置かれている多忙きわまる現状は変えなければなりません。改革を行うことは、学校教育の本来の姿を確認する作業であるとともに、これから教員を目指す若い人たちにじっくり落ち着いて教員であることが可能な環境を用意する作業であると思います。

本日は、文部科学省の中村様から「学校における働き方改革」についてご講演をいただきます。私自身しっかり勉強したいと思います。続いて県教委から義務教育に関する各種の取り組みについてご説明申し上げます。質疑の時間を設けますので、ご質問以外にも忌憚のないご意見をいただければと存じます。

県教育委員会としましては、市町村(組合)教育委員会との連携を密にし、現状と課題を把握しながら、各種の教育課題に取り組んでいく所存であります。今後も引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。本日はどうぞよろしくお願いたします。